

えんげしょうがい たいおう 嚥下障害への対応について

胃 胃ろうについて



お腹から胃に数cmの穴を開け、短いチューブを通して、胃の中に直接、食事や水分、栄養剤などを入れる方法です。

一般の方でも簡単に管理、取扱いができ、チューブは服の下に隠れるため見た目が気になりません。多くの場合、胃カメラを使用して30分以内で造れますが、抜糸も含めて約1-2週間の入院が必要です。ただし呼吸状態や以前の手術歴によっては、造ることをお勧めできないことがあります。



■お腹から栄養をとる様子

点 点滴について

腕の細い血管から点滴をする末梢静脈栄養と心臓の近くまでカテーテルを通して点滴をする中心静脈栄養があり、中心静脈栄養では1000kcal以上の高カロリー点滴が可能です。中心静脈栄養に使用するカテーテルは、局所麻酔での手術で日帰り~1泊2日で造設可能です。ただし血管内にカテーテルが長期間入ることで感染症を起こすリスクがあります。神経難病患者では飲み込むことは難しくても、腸管は問題なく動いているため、点滴ではなく胃ろうや経鼻胃管が推奨されています。



■鼻から栄養をとる様子



■点滴を受ける様子

なんでもお答え!

Q&A ドクター

Q 胃ろうや経鼻胃管を始めると飲食ができなくなりますか?

これらは食事で不足した栄養を補う目的ですので、飲食可能です。ただし嚥下障害の状態によって、食事の制限や食形態の工夫が必要な場合があるので、担当の先生に相談してください。



Q 胃ろうを作った場合、自宅での生活は大変ですか?

胃ろうを作っても、日常生活に制限はありません。栄養剤の注入にかかる時間は、液状栄養剤で約1時間、半固形栄養剤で約10分です。栄養剤の注入は、本人や家族、医師、看護師の他、資格を持った一部の介護職員が可能です。

